

# 常滑市民病院だより

発行者：病院長 中山 隆  
編集：病院広報委員会  
第58号  
2012年1月1日発行



～♪～ みんなのミニコンサート2011 ～♪～

## — 第58号の内容 —

- \* 「コミュニケーション日本一の病院」  
をめざして  
事務局長 梅原 啓三
- \* 「研修医としての2年間を振り返り」  
研修医 山口 洋平
- \* 「部署紹介」手術室  
看護師長 松原 紀子
- \* 「新しいCT装置について」  
放射線検査センター技師長 木田 秀夫
- \* 「自分の足を守りましょう！～フット  
ケアのすすめ～」  
外来看護師 渡邊 和子

## 「コミュニケーション日本一の病院」をめざして

事務局長 梅原 啓三

昨年は、3月11日の東日本大震災によって、多くの方々が亡くなられ、また、今なお行方が分からない方々も見えます。心よりご冥福をお祈りいたします。さらに、福島原発事故が発生し放射能汚染という将来にわたる大惨事となるなど、戦後最大と言われる未曾有の災害の年となりました。震災では、津波によって海岸沿いにある病院はそのほとんどの機能を失い、被災した多くの方々が医療を受けられなくなりました。災害時における病院の役割がいかに大切なものかということを感じさせられました。

さて、当市民病院では厳しい経営状況が続いていますが、市民の皆さんに「広報とこなめ」などを通じて、市民病院の診療機能や取組みをお知らせしたり、開業医さんとの連携を進めていることによって、市民病院を利用いただける方々が徐々に増えてきています。そうした中、昨年5月から9月まで5回に亘って「みんなで創ろう!!新・常滑市民病院100人会議」を開催し、参加していただいた市民の皆さんから多くの貴重なご意見やご提案をいただきました。それらは、並行して開催された基本構想策定委員会の中でも議論され、基本構想に反映されました。

そして、11月にはパブリックコメントを経て、「新・常滑市民病院基本構想」をまとめることができました。

基本構想冒頭の基本理念では、“私たちは、小さいからこそできる「コミュニケーション日本一の病院」を実現します。”と掲げています。具体的には、①顧客コミュニケーション、②スタッフコミュニケーション、③地域連携コミュニケーションの3つのコミュニケーションを大切にしたい病院にしていこうとするものであります。実はこの基本理念は、初めから盛り込まれていたものではなく、100人会議の議論の中で、市民のメンバーから提案されたもので、市民病院に対する“市民の熱い思いと期待”が込められています。「コミュニケーション日本一の病院」は、新病院の基本理念ですが、今からすぐにでも実践できるものです。病院職員にとってとても大きな目標ですが、地域医療をしっかりと支え、市民の皆さんの期待に応えられるよう、職員一同、力を合わせていきたいと考えています。

これから、基本設計→実施設計→建築工事へと進め、あと3年後の平成27年5月には飛香台に地域医療の拠点として、新病院が開院します。市民の皆さんの引き続きのご支援ご協力をお願いいたします。

# 「研修医としての2年間を振り返り」

研修医 山口 洋平

常滑市民病院での2年間の臨床研修も終盤にさしかかってきました。

研修医というのは正しくは、前期研修医、または初期研修医と言われ、大学を卒業、医師国家試験に合格し、臨床研修指定病院で2年間の研修が義務付けられており、2年間で内科、外科など様々な診療科をローテーションしていきます。当院に常勤医が不在の診療科（整形外科、精神科など）は他院で研修しています。最初は同期の川合先生と2人で細々と頑張っていました。今年も後輩研修医が2人加わり現在当院には4人の研修医が研修しています。

思い起こせば、2年前の6月、循環器内科の後藤先生にメールを頂き、病院見学に来させて頂いたのが、常滑で研修を受けるきっかけとなりました。その日はちょうど互助会のボウリング大会の日でもあり、病院の皆さんとお話ができ、また後日、血液内科の高木先生からは丁寧なお手紙を頂きました。有名な研修病院も選択肢にはありましたが、常滑市民病院のような病院で働く方の顔が見える病院のほうが自分にはあっていると思い、研修先を選びました。

研修が始まってから、病院の多くの方々にお世話になりました。上級医の先生には昼でも夜でも分からないことがあればいつでも相談に乗って頂きましたし、病棟、救急外来の業務では、看護師さ

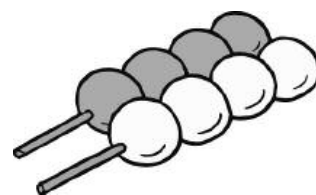
んたちにたくさん助けて頂きました。また、画像、検査で迷った時は、放射線技師さん、検査技師さんにいつも助けて頂きました。先日も、化学療法中で口の中が荒れてしまい、食べ物の摂取が困難な患者さんに対して、ある看護師さん、栄養士さんが食形態を検討してくれ、患者さんが食事をとれるようになったという事がありました。この患者さんは糖尿病でインスリンを注射していて、食事の量が安定しないため、インスリンの量の設定が難しく頭を悩ませていました。でも日が経てば良くなっていくからと思いつつ口の中が治るのを待っていたように思っていました。しかし食形態を変更してから食事量が安定し、インスリンの量も安定し、血糖のコントロールもスムーズになりました。自分なりにとても反省させられ、勉強させられる一件でした。

常滑市民病院は、特に高齢の方の入院が多く、患者さんにとってのゴールを設定するのがとても難しいように感じます。しかしながら色々な職種の人に関わりそのゴールに向かっていける病院であり、今後もぜひそんな病院であってほしいと思っています。研修はまだ残り3ヶ月ありますが、この場をおかりして、病院で働くすべての方々、色々なことを経験させていただいた患者さんのおかげでここまで来ることが出来ました。本当にありがとうございました。

## ..... 常滑市民病院祭(感謝祭)開催のお知らせ .....

当院は新市民病院の基本理念で「コミュニケーション日本一の病院」をめざし、実現に向け各種取り組みを行っています。地域住民の皆様に関われ、親しまれる病院を目指し、常滑市民病院祭(感謝祭)を平成24年3月18日(日曜日)10時から15時まで開催いたします。

当日は病院を開放し、バザーや各種催し物を用意しておりますので、ぜひご参加下さい。





# 部署紹介 今回は「手術室」を紹介します

看護師長 松原 紀子

こんにちは、手術センターです。私どもの部署は???もちろん手術をする場所です。血管外科の小林先生を部長として、日々患者様が安全に手術を受けられるように努力しております。

手術が決定すると主治医より月日・時間の予約が入り手術伝票が出されます。私たちは、手術の予定を見て、さまざまな物品の準備をします。そして、手術の前日又は当日に担当看護師が患者様を訪問し、手術室への入室方法・麻酔の方法など説明して、出来る限り患者様の不安が少なくなるように、お話をさせていただいております。

子供さんの手術の時は希望により、手術室を見学していただくこともあります。また、患者様入室の時には音楽を流したり、手術中DVDを流したり、子供さんは、麻酔で眠ってしまうまでお父さんやお母さんに一緒に手術室に入っていただくということもしております。

手術が始まるとスタッフ全員きりっとした表情に変わり、主治医を先頭に真剣に手術に取り組んでいます。もちろん緊急手術は、24時間365日受け入れOKです。

手術の少ない日の手術室スタッフは、救急外来・アンギオ室と飛び回っています。赤い服の職員を見たら、あー手術室のスタッフだなーと思って応援してください。



## 「新しいCT装置について」

放射線検査センター技師長 木田 秀夫

平成23年12月12日から128列マルチスライスCT装置（SIEMENS SOMATOM Definition AS+）が稼動しました。128列とは、X線を検出する検出器の列数のことで、当院で稼動していたマルチスライスCT装置（16列）と比較して、より高速に、より広範囲に、より細かく撮影することが可能となりました。このため、呼吸の停止が困難な患者さんにも、以前より楽に検査を受けていただくことができます。



また、CTと同時に導入した画像処理装置（ワークステーション）を用いることで、高精細な3D画像の作成や、血管の太さ、臓器の容積計測などを行うことが可能になりました。さらに大きな特徴の一つとして、今まで心臓カテーテル検査で行われていた冠動脈疾患のスクリーニング検査も、この128列マルチスライスCTで行うことが可能です。造影剤を使う点では心臓カテーテル検査と同じですが、検査に伴う合併症のリスクは大幅に低減され、検査時間も比較的短時間ですみ、検査後も特別な止血操作や安静時間の必要がないため、外来での検査が可能になりました。



# 「自分の足を守りましょう!～フットケアのすすめ～」

外来看護師 渡邊 和子

## 👣 フットケアとは？

フット（＝足）、ケア（＝配慮しながらお手入れをする）という意味で、足をよく見て・触って、異常（皮膚の変化、傷や炎症、血行障害や知覚障害など・・・）の有無を確認するために行います。

問題がない場合は、現在のきれいな足を保てるようにお手入れすることが大切です。

もし足に異常があったら、その症状にあったお手入れや治療が必要となります。



## 👣 フットケアの必要性

糖尿病や透析治療を受けている患者さまの足は、足の冷え・しびれ・痛み・潰瘍形成などが起こりやすくなっています。その原因は動脈硬化や末梢血管障害のために血液の循環が悪くなるからです。さらに、血液の循環が悪化した場合、足の切断に至る場合もあります。

また糖尿病の患者さまは、神経障害により足の感覚が鈍くなり、足の異常の早期発見を困難にしています。そのため、フットケアによる足の症状の早期発見・早期治療が必要となるのです。

## 👣 フットケア外来開設しました

当院ではスキンケア・糖尿病を専門にしている看護師でフットケア外来を行っています。足の観察・神経障害・血流障害の程度をチェック・胼胝（たこ）・鶏眼（うおのめ）の処置・爪切り等のケア・日常生活の指導等を行っています。

看護師主体の外来です。お気軽にお立ち寄り下さい。

### 足の自己診断をしてみましょう！

以下の項目に当てはまる人は要注意です。当てはまる項目が多い人ほど、足病変の危険性が高くなります。

当てはまるものをチェックしてみましょう。

#### チェック項目

- 足がしびれる、違和感がある
- 足が痛い（安静時・運動中）冷える
- 足がよくむくむ
- 足の皮膚が乾燥し、ひび割れがある
- 靴の中の小石に気付かないことがある
- タコがある
- 足に水虫がある
- 爪が厚くなって、爪切りに困る
- ときどき足にやけどする
- 目が悪くて足がよく見えない
- タバコを吸っている
- 血糖コントロールが良くない

※当てはまる項目が少ない場合でも、定期的に医師の診察を受けましょう。

### フットケア外来

【時間】毎週月曜日 13:30～16:00 予約制

【場所】皮膚科外来

【受診方法】まずは各科主治医にご相談ください。



## 編集後記

昨年は東日本大震災により、日本中が多くの悲しみに包まれました。しかしその中で多くの絆が生まれ昨年的一年を表す漢字も“絆”となりました。当院も地域住民との絆を大切にしながら、皆様の健康が守れる市民病院であるよう頑張っていきます。今回の病院だよりより「部署紹介」として各部署の特徴などを紹介していきますので、楽しみにしてください。（編集担当）